

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address. http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

14年産/15年産南半球産百合球根流通状況及び15年産在庫表送付にあたり

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

数回に分けて15年産南半球産百合球根在庫表（価格表（仮））を送付させていただいております。今回いくつかの変更箇所及び変更予定（依頼）を含めてお知らせいたします。

よろしくご確認ください。

3月3日～3月7日にかけて、ハンザンテンN.Z社2名+ハンザンテン社2名、バッカー社2名+アイトバルブス社3名+P.O社2名、計11名で主要南半球産百合球根消費地に出向き、現地確認を行う予定となっております。

3日千葉、4日高知、5日岐阜（当日に日本花卉球根輸出入協会JFTA®加盟6社との意見交換会が開催されます。約20名、各社営業担当・仕入担当。）6日埼玉、7日栃木（輸出業社2軒、輸入販売会社4軒のみ。）。

日本の代表的な気象条件（様々な気象条件）下での差を確認したい。（東北・新潟・沖永良部の露地栽培は、さすがに、これらの訪問先の気象条件と対比するには無理がありますが…。）

各県の気象条件、販売条件の違いを見て頂くことによって、各々の球根生産会社の球根がどのような切花生産状況となっているのかの確認、C.H産との比較も示すことが出来そうです。

既に2月上旬の福岡県（LPJリーアベニュー開催時）においては、1軒の輸出業社+5軒の輸入販売会社合同でのハウス視察も実行されております（JFTA企画ではない）。その際、個人的な感想は、埼玉の雰囲気に似ていて、ちょっとビックリしました。

今年は皆さん気合が違います。情報の整理を進めたいのでしょう。

最近の傾向は、ベトナムなどのアジア諸国1か国+日本という研修企画を組んで、N.Z生産会社自ら数年に1回、消費地確認に入ってくれることになってきました。良い傾向だなあと感じます。（埼玉FLC様の研修旅行にも既に2～3回参加しています。昨年はベトナムで食中毒…日本人だけ…あいつら強いなあ～。）

*在庫表/価格表については、是非ご確認くださいですが、この文章は興味がある様ならご拝読ください。

『14年産南半球産百合球根切花作況を考察する』（まだ途中経過ですが…）

反省を含めた報告となります。

それは、14年産南半球産百合球根、生産地それぞれの特徴を考えて（意識して）営業/販売をしていたかという点についてです。

振り返ってみれば…、

1999年から、隔離免除となったN.Z産についてはその生産流通当初、南島南端（インバーカーギル、バルクルサ）から北島（オクランド）まで、生産地はN.Z広域に分布しており、それぞれの球根産地の特徴（差異）が際立っていました。

大きさに言えば、同一品種同一サイズの球根で、その到花日数の差は最大4週間。葉枚数の差は20枚以上。

抑制作型での凍害発症割合・輸付き・草丈など、「全くの別物」というくらい大きな差があった事を記憶しています。

近年では、N.ZにおいてO.H/O.T系球根生産地はほぼ2カ所に集約され、概ね3軒の球根栽培農家の球根が流通しています。

結果…

- 1) 球根生産地の気象特性についての分析（その年々の）が疎かになっている。（14年産は特に…。）
- 2) 1年、1.5年、2年栽培等の栽培履歴に興味のポイントが移行した。（問題のポイントという意味でも。）
- 3) 品種（新品種）の品ぞろえの重要度が増した。（それを営業トークにする会社が輸出入とも増加…安易…。）
- 4) 日本向け品種に対して、生産会社毎に生産集約化が進んできたため、複数サイズでの球根流通が主流となりつつある。（消費する日本の切花産地に対して、作型別供給サイズを替える球根流通方法などを模索。）

※これらは、ほぼ同一の球根消費期・流通期をカバーしなければならぬ「オランダ産球根」では、マイルドな気象条件ですから、対応可能なのかもしれません。（厳密に言えば違うのでしょうか…。）

※当年より流通開始となる「フランス産球根」においても、始めから4月中旬～9月上旬までの出庫期という限定した範囲であれば対応可能な考え方なのかもしれません。（オランダ切花会社からのコメントアドバイス。）

※やはり南半球産は、違います。

- 1) 土壌条件が違う。N.Z産では微量要素の一つであるモリブデンが全く畑の中に無い、もしくは、百合がそれらを吸収しにくいバランスになっている事があるそうです。（Plamvウイルスに似た症状が出る？）
- 2) 複数回、百合球根栽培をしている畑が、増加している。
- 3) オランダ人にとって、栽培経験がほぼ無いと言って良い火山灰土での球根生産地帯が、N.Z/C.H共に多数存在している。（りん作体系は？土壌病害（ネトグ etc.）対策は？Plamv感染拡大の影響は？）
- 4) やはり栽培地ごとの距離が、オランダとは比較にならないくらい遠い。当然天候は違う…。(N.Z/C.Hともに。)
- 5) N.Z/C.H産ともオランダ産よりも暖かい地域の生産…どちらかといえばフランスに近い。ここは重要なポイントでしょう！

14年産南半球産百合球根における、病害/品質不良発生状況を踏まえてもう一回確認しておきたいと思います。（9月納品9月下旬定植作型から、10月納品11月10日前後までの定植作型について）

1) 14年産南半球産百合球根は、10年産/11年産オランダ産を母球にしているケースがN.Z/C.H産とも高い。

- ①10年産/11年産当時のPlamvに対して意識・ウイルスを調査するノウハウは、今日のレベルとはまるで違う…。
- ②11年産オランダ産は、近年では最もLMOVが多発していた年だった。
- ③したがって、南半球産14年産/15年産の一部では、ウイルス濃度が高まっているロットが多数確認できてしまうはず。（Plamv含む）
これが、一つの産地に問題が集中していなくて、N.Z/C.H産とも平年比較で発症割合が高い理由となっているのではないのでしょうか？どんなに母球管理をしても…当時の技術レベルでは…。
- ④13年/14年の南半球産は、アブラムシの飛散量が多い温度帯だった？本当？
- ⑤バルティビアリー社産の球根は、10年産/11年産のオランダ産種球（母球）の影響をあまり受けていない？
結果LMOV+LSVの影響が少ないから、Plamvの発症率も少ない？

2) どうやらN.Z/C.H産両方ともに休眠打破の為の低温積算が十分に確保されていなかった球根があるのでは？

- ①低温積算が十分になされていなければ、輸付きの減少・生育のバラつき・ウイルス症状の発症は大幅に増加する事は、既に日本産の球根を使用していた時代からわかっていた事！
- ②14年産R.トリニティの輸付きの悪さ、N.Z産コンパニオン、C.H産リバープリンセス・シベリアなどのウイルス発症率の早期作型の高さ（LMOV/LSV）、後半戦の少なさって…。(後半戦はまだこれからですよ！ウイルスが入っているのは事実…問題は発症率。)

3) 前回の情勢報告でもレポートしましたが、14年産N.Z産は力が無かった。芽が動きやすかった…。(寝ぼけた球根…。)

①品種によって、球根年齢によって、産地によって、差はある。

4) 15年産取扱に対して…

①やはり球根生産地毎に得意不得意作型があるのだという事を、もう一度しっかり考えたい。(そのために岐阜で試験栽培を始めてくれたのに…今年は何もチェックばかり…。)

②ここまでの取引で、各輸出入業社(もちろん当社含む)への発注確保販売作業に偏りは無いのか?(14年産の結果で、一喜一憂していないか?しかも早期作型の結果のみで…。)

③更に気象条件の差、特に14年と15年の差を意識したい。2月4日のレポートは有効だと思います。

④1回の作型で2~3の別産地の球根を導入してみたいかでしょうか?

違いをご自身で見極めてほしい!当社の場合、「受注」「受注変更」「欠品報告」「納品」に至るまですべて生産会社単位で取り扱っています。

「皆様に違いを利用してほしいから」、「品質変動のリスクを分散してほしいからです」。

*理想的には、N.Z産50%、C.H産50%がリスク分散の基本?(日本市場は、概ね78:22)

*なぜN.Z産に消費が偏るのか?

*C.H産の情報は少なすぎる?(もう一度隔離免除になった02年産までさかのぼって考えましょう。)

*中長期展望で見た時、日本はN.Zにどんな品種を作ってもらいたいのか?

*中長期展望で見た時、日本はC.Hにどんな品種を作ってもらいたいのか?

現状では、

N.Z産	V.ZN.Z社産	0.H/O.T系	±	10,500,000	球	内外							
	アイランドバルブス社産/パッカーN.Z社産	0.H/O.T系	±	6,900,000	球	内外	←	←	この2軒は分けられなかったが、ほぼ50:50と考える。				
		計	±	17,400,000	球				複数輸出入業社供給体制なので、				
									ややパッカーの方が多いか?				
C.H産	サンハーベスト社産		±	1,000,000	球	内外							
	バルティビア社産		±	800,000	球	内外							
	サザンバルブス社産		±	3,200,000	球	内外							
		計	±	4,950,000	球	内外							
		総合計	±	22,350,000	球	内外							

14年産輸出実績(輸出入業社からの聞き取り調査/推定。従って、総数は各地域の想定輸出数と合っていない。)輸出入業社(オランダ)別の調査数はありますが、地域農家毎の統計は、現在のところありません。

*22,350,000球0.H/O.T系の流通数は、妥当なのか?

*休眠打破の年次変動、球根保管、貯蔵期間年次変動のリスクは、どこまで考えるべきなのか?

*南半球産のみで配色のバランスを検討して良いのか?

*例えば、白約50%、ピンク40%内外、赤3%内外、黄5%内外?

もしそうなら													
	白	約±	11,200,000	球?									(こんなにあるのか?この内ハリアは何球なの?)
	ピンク	約±	9,000,000	球									(コンパニオンとソルボンヌは?濃いピンク?淡いピンク?)
	赤	約±	700,000	球									
	黄	約±	1,100,000	球									
	計	約±	22,000,000	球									

12月下旬から5月下旬(6月上旬まで)N.Z産/C.H産だけでこんな色割合での切花出荷って可能なのでしょうか?(オランダ抑制球/促成球再検討の必要性は?)

*Plamv問題を踏まえ、各社の母球・養成球洗浄駆除進捗状況を考えた時、どんな仕入れと販売が模索できるのか?(15年でティッシュカルチャーをかけても、正規球根生産体系で切花用球根が流通するのは21年以降…。今更古い品種を品質改善するのでしょうか?それとも新品種の増産を待つべきなのでしょうか?)

*球根の国際消費を考えた時、どの農家にどんな品種を作ってもらう事が妥当なのでしょうか?(複数サイズ消費…。アジア圏消費中心。)

誰も完全には把握できていないと思いますが、15年産開花球の履歴は、14年産とは違うロット数の割合が相当高まっているはず。前年の問題を大きく引きずるケースと、全く関連性が無いケースがあるという事をご承知おきください。

改めて確認の意味で各地の気象条件から生産される産地毎の球根特性を考えましょう。

N. Z 産

アイントバルブス社（当社販売コード NIS）産地：ネピア、一部カヤ

火山灰土。暖かい（暑い）。ネキッドスケル生産は、長期的には考えていない。（この意味は…）
栽植密度は薄い（広い）。
休眠打破が遅い。（休眠打破が遅れた年、低温積算が十分に行われていない年は注意。）
暖かい所で作られた球根なので、保管性は良いはず。
球根栽培技術は、南半球産でもトップレベル。それだけで良い球根が出来るわけではないが…。

バッカー社（当社販売コード BK）産地：カヤ

沖積土。1年、1.5年、2年栽培。ネキッドスケル生産を行う。（この意味は…）
栽植密度が他の農家に比べて厚い（狭い）。従って、輪付きボリュームが他農家に比べて落ちる。
力が強すぎないので扱いやすい。
休眠打破も安定的で行いやすい。どちらかといえば早い作型向き。
品種や球根栽培年齢の差を利用すれば使用作型は広がる。

バンザンテン N. Z 社（当社販売コード 無印！）産地：カヤ

沖積土。1年、1.5年、2年栽培。ネキッドスケル生産を行う。（この意味は…）
栽植密度は、バッカー社に比べて薄い（広い）。従って、輪付きボリュームがあるケースが多い。
力が強すぎるケースもあるので、早い作型では生理障害が出る場合も…。
2軒の委託栽培農家があり、各々の標高差もある。品種や球根栽培年齢の差を駆使すれば、広い作型に使い安い球根。
これらの事が、日本の南半球産百合球根 O. H/0. T 系の 45% 近くがこの生産会社になる大きな理由となっていると思う。
時々バックスで大きな事故を起こす…。

現在から近い将来に向けて、日本の白系 O. H の主要供給産地になるのでは？色物は？需要が移ろいやすいですよ？白系 O. T は…どうなりますかね…？

ザンローラ社（当社販売コード SF）産地：ゴア、インバカギル南島南端

土質は、通称クレイソルといわれている。どう表現して良いか分からない。粘土質で、有機質は少ない。
O. H/0. T 系球根生産にとっては、やはり寒過ぎ。他地域との比較で、面積当たりの収量が少なすぎる…。
現状では取扱いの予定はない。A. H/L. A のみの取扱い…。

C. H 産

サンバースト社産（当社販売コード LOS）産地：ロスアンゼルス

火山灰土主力だが、砂壤土も…。暖かい（暑い）。
休眠打破が遅い。（休眠打破が遅れた年、低温積算が十分に行われていない年、注意必要。）
生産構造はシンプルなのだが、流通構造が少しややこしくなっている。（オランダ球根市場の影響を色濃く受けている。）
早い作型への導入は、リスクが高い。どちらかと言えば、遅い作型向きの品種構成にしてもらった方が、私たちとしては扱いやすいのでは？
この産地の球根の特長が生かしやすい事が解っているから、ザンバルブス社も土地を求めたのでしょうか！
白は？ありますよね？

バルビアリ社産（当社販売コード VLZV）産地：バルビア

火山灰土主力。掘り取り時の降雨で地温上昇。

ウイスは、随分きれいになったが、ソボンヌ、シリア、コンカドールはまだ…。全ての生産会社に言えることだが、ウイスの温床となる品種をどの生産会社も持っていることを忘れてはならない。輸出洗浄・輸出消毒時の影響は？

ソ社の時代と栽培責任者が変わっている。過去の使用経験では、休眠打破は、決して早い方ではない。休眠がきれいに破れていない作型は、ウイス（LMOV+LSV）の発症だけではなく、葉色がのらなかつた。この点が球根栽培技術により改善されているかは不明…。

遅い作型では、年によって芽が動きやすい。この点も要注意。

ウイスについては大きく改善。（この点は本当に立派！）

栽植密度も薄く（広く）設定されていて、ボリューム感・輪付きとも大きく改善していると思う。

新品種が多いだけに魅力はあるが…使い方が結構制限されていた事…忘れていませんか？生産者が変われば変わるのかなあ？

白系 O.H の良い品種が無いかなあ～。白 O.T は？

ザンバルス社産（当社販売コード PUGS）産地：広域

その昔、球根生産地がピュウエ地区・オクル地区に集中していた時代、C.H 産の中では、最も使用範囲の広い球根だという認識だった。（N.Z におけるワイヤ地区みたい…）この点は今も変わっていないと思います。（土は…何回も使っちゃった…）

南半球産の中で一番最初に PUGS という特別コードを設定したのが、この産地の球根でした。（明らかな違いを評価していた。）

土質は、火山灰土主体。（生産地が拡大したため要調査。）

1) ピュウエ/オクル地区よりさらに涼しいところ。

2) バルビア近郊

3) ロアソングェル近郊

などに産地が拡大している。（5～6カ所？）

*この生産会社に関わる対日ワング輸出業者数は、5+α軒と最も多くなっている。

この会社の球根の特長がしっかりと情報整理されれば、極めて使用範囲は広く、高いポテンシャルを発揮するのだらうと思う。（原母球・母球・養成球管理は？）

対日市場において、2軒の輸入業社が高いシェアを構えている様子。どのように使っていけるかを導き出せば…良い仕事になるのだと思う。どうやったらそうなれるのか？（輸出業社数が多いだけに…）

白系 O.H の良い品種が無いかなあ～。白 O.T は？

カントブリーズ社/ガイアル社/リアントボレ社

2015年4月6日～12日。3年ぶりにC.Hに出張してまいります。

その後のレポートとさせていただきます。

白系は？

生産地毎の球根の特長を再確認しましょう。

99年～02年～各々の地域の球根を使ってきて分かってきた事は、大切な財産だと思います。（私の個人的な考察では無く、切花農家の皆様の経験となっているはず！）

14年産は（近年は）、それをやや忘れてしまっていた様に思います。

15年産南半球産の取引最終調整の際には、是非選択基準の中にもう一度この事も考えてみて下さい。合わせて、使用作型を設定される際には、是非ご相談ください。

よろしくお願ひ致します。

詳細はお問ひ合わせください。

以上 森山 隆